



< 安全性情報 > 自動車運転について制限のある NSAIDs について

自動車運転に対する「注意」あるいは「禁止」が添付文書上で規定されている医薬品に対しては、薬剤師には薬学的知見に基づく指導が義務化されていることから、経口糖尿病薬等の運転注意薬には「注意喚起」を、精神神経用薬、抗パーキンソン病薬、抗うつ薬などの禁止薬には「運転しない」ように説明・指導する必要があることについて「かわら版 No.2」に記載しております。また、抗ヒスタミン薬については「かわら版 No.41」に、「かわら版 No.45」ではパーキンソン病治療薬プラミペキソールなどの非麦角系ドパミン作動薬による突発性睡眠について記載してきました。今回は、NSAIDs にも自動車の運転等に注意が必要なものと、禁止するものがありますので掲載しました。

「運転禁止」についての指導は、生活のために車を運転しなければならないような患者の事情もあり、一概に「自動車を運転しないでください」と指導するのは難しいので、シクロフェナクで記載されているように、服用して眠気、めまいなどを感じた場合は運転しないようにと指導した方がよいかもかもしれません。（「かわら版 No.2」参照）

自動車運転	一般名	商品名	添付文書「重要な基本的注意」記載
注意	メフェナム酸 (散・Cap・Syr)	ポンタール	めまい、眠気があらわれることがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に注意させること。
	セレコキシブ (錠)	セレコックス、他	浮動性めまい、回転性めまい、傾眠等が起こることがあるので、自動車の運転等危険を伴う作業に従事する場合には注意させること。
禁止	ジクロフェナク (錠・Cap・坐)	ボルタレン、他	本剤投与中に眠気、めまい、霧視を訴える患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように十分注意すること。
	メロキシカム (錠)	モービック、他	眠気の調節障害、眠気等の精神神経系症状があらわれることがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように十分注意すること。
	インドメタシン (坐)	インダシン、他	眠気、めまい、ふらつき感等があらわれることがあるので、本剤投与中の患者には、自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように十分注意すること。
	インドメタシン フルシドール(Cap)	インフリー	
	プログルメタシン (錠)	ミリダシン	眠気、めまいがあらわれることがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等、危険を伴う機械の操作には従事させないように注意すること。
	アセメタシン (錠)	ランツジール	

※ 「かわら版」のバックナンバーは当社ホームページで閲覧できます。

< お役立ち情報 > シックデイに対する患者の理解度は？

昨年2月に発行した「かわら版 No.8」で、治療中の糖尿病患者が、例えば風邪をひく、発熱、下痢、嘔吐等をきたす、食欲不振のために食事ができない状態になる、いわゆるシックデイについて掲載し、シックデイの対応方法について、インスリン治療中の患者はインスリンを中断しないこと、ビッグナイド系薬やSGLT2 阻害薬を服用している患者は服薬をやめること、十分な水分摂取を行う等についても情報提供しました。

シックデイについては、医療者側での十分な説明とそれによる患者の十分な理解を必要としますが、本年5月 11～13日に鹿児島で開催された第66回日本糖尿病学会年次集会で、芳珠記念病院(石川県能美市)の浅野氏が、糖尿病外来を定期受診している患者383人(1型患者47名、2型患者325名)に、その認知度などについてのアンケート調査結果が発表されました。

1. シックデイの認知度 (図1)

1型患者では「知っている」が34%、「聞いたことがあるが、よく知らない」が23%、「今回のアンケートで初めて知った」が43%だった。2型患者では同じ順で12%、16%、72%であり、認知度は2型患者で低かった。

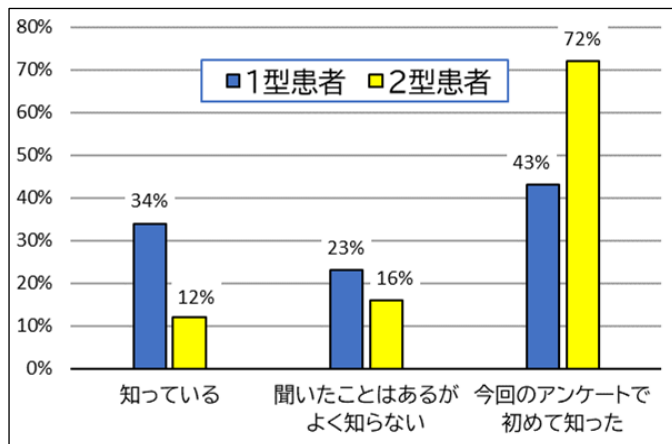
2. 実際のシックデイ経験患者

1型14人(30%)、2型26人(8%)だったが、「分からない」との回答が多かった(1型45%、2型50%)

3. シックデイ時に休薬する糖尿病薬の認知度

ビッグナイド薬(BG薬)とSGLT2阻害薬は、シックデイ時に確実な休薬が求められる。BG薬では服用患者の19%が休薬

図1. シックデイの認知度



が必要であることを知っていたが、SGLT2 阻害薬では休薬の必要性を知っている患者は10%にとどまった。

この調査結果から、シックデイの認知度は極めて低く、説明も不十分であることが判明したと、浅野氏は結論しています。

<まとめ>

糖尿病薬はハイリスク薬であり、特定薬剤管理指導料1を算定する場合は、副作用としての低血糖症状などと共に、シックデイの状態や糖尿病薬の休薬あるいは減薬等について情報提供する必要があります。特に、BG薬やSGLT2阻害薬を服用している患者には丁寧な説明が必要であると思います。

(SGLT2阻害薬については「かわら版 No.17」を参照)